

## <資 料>

# イギリスの付加価値会計の資料(1)

中原章吉

## 1 はじめに

駒沢大学海外研修員として、昭和57年度に渡欧することが決定する2年から3年前から海外に付加価値会計の研究調査に行くのなら、まずイギリスに行ってみようと考えていた。1975年(昭和50年)にイギリスの会計基準委員会が、付加価値税をEC加盟にともなって導入をしたのに呼応して、「コーポレート・レポート」というディスカッション・ペーパーを発表して以来、イギリスの付加価値会計は制度的な確立をみせはじめてきたからである。付加価値会計の制度化ということは、イギリスとともにフランスが1981年のプラン・コンタブル改訂によって、実施されるようになったけれども、法の直接的規制によらないで制度化しているイギリスが、実施すればわが国もそうなるであろうと考えて、まず調査研究をしてみようと意図したわけである。

こうして、渡欧する前に、イギリスの付加価値会計の研究者に手紙を出して、予備的資料を集めてみようと試みたのである。それにはまずわが国にその著書・論文の入ってきているイギリスの付加価値会計研究者に手紙を書くことから始めた。昭和56年夏のことである。

イギリスの付加価値会計の研究者は、その出版されている研究書で確認できるが、研究者の所在は必ずしもそれによってわかるわけではない。そして、付加価値会計の文献・資料も、イギリスの文化の中心であり、学術活動の中心であるロンドンに集中して集積しているであろうし、付加価値会計の研究者や、諸機関も、やはりイギリスの首都ロンドンに集まっているのであろうと

考えて、そしてイギリスのどこにもロンドンに居を持つことが便利と  
考え、ヨーロッパへの留学先はロンドン大学経済学部および大学院 (London  
School of Economics and Political Science) にしようと思って、ロンドン大  
学のボール (R. J. Ball) 教授の紹介でエデイ (Harold Edey) 教授に手紙を出  
した。エデイ教授はロンドン大学の会計学の教授である筈であった。ところが、  
エデイ教授はすでにそのとき退職してしまっていて、会計学の教授はデ  
ィブ (Susan Dev) 教授になっていた。そして、ディブ教授は私がロンドン  
大学に付加価値会計の研究に行くことを承認する旨の手紙を昭和56年9月17  
日付でくれたのである。

私は昭和56年の夏にイギリスの付加価値会計の専攻者に手紙を出して、昭  
和57年にロンドンを訪ねることを告げ、イギリスの付加価値会計の情報を知  
らせてくれるように要請し、必要なら拙著『企業付加価値会計論』(中央経済  
社、昭和54年)を送ることを書いておいた。その手紙に最初に返事をくれた  
のはスコットランドのアバーディーン大学のモーレイ (M. F. Morley) 教授で  
あった。早稲田大学の塩原一郎教授から紹介していただいたスコットランド  
のグラスゴー大学のグレイ (S. J. Gray) 教授はマンダース (K. T. Maunders)  
教授との共著「付加価値の報告：その利用と測定」(Value Added Reporting:  
Uses And Measurement)を添えて返事をくれたし、コックス (Bernard Cox)  
氏は付加価値の文献リストを添えて手紙を送ってくれ、ウッド (E. G. Wood)  
氏は、『付加価値、価値創造と生産性』(Added Value, Wealth Creation And  
Productivity) というパンフレットを添えて情報を提供してくれた。

私が手紙を出した人たちの中で、唯一人だけ返事をくれないうでいたギルクリ  
スト (R. R. Gilchrist) 氏から返事があったのは昭和56年12月であった。彼は  
イギリスにいなかったのである。ギルクリスト氏はオーストラリアで活躍し  
ていたために、私の手紙が転送され、彼に届くのが時間がかかり、返信も遅  
れたわけであった。

これらのイギリスからそしてオーストラリアからの資料に対して、私は私  
に手紙をくれた付加価値会計の研究者たちに、私の著書を送った。

こうして集まった資料は、イギリスの付加価値会計の一端を示すものであらうと私は判断して、ここに資料として明らかにしようとするのが本稿の目的である。

## 2 ギルクリスト氏のみたイギリスの付加価値会計

ギルクリスト氏は現在ではイギリスにいないわけであるが、そのギルクリスト氏が、最近まで活躍していたイギリスの付加価値会計について、その代表的研究者は次の3人であるといっている。

その第1に、アバーディーン大学のモーレイ教授をあげている。第2に、原価会計士協会のコックス氏、第3に革新・生産性センター所長のウッド氏をあげている。そしてギルクリスト氏は、この3人の中でウッド氏が最も付加価値をよく利用していると判断するから、まず第1にウッド氏と交渉をもつことをすすめるというのである。そうすればウッド氏はイギリスの他の研究者も紹介してくれるので、私の研究調査（付加価値会計の発生因子である生産性向上運動の調査）に役立つだろうというのである。

そのウッド氏とは、前述のように9月21日の時点で交渉があった。

## 3 ウッド氏の付加価値会計について

ウッド氏はシェフィールド市ポリテクニク（高等技術教育機関）の革新・生産性センターの所長であるが、ウッド氏の名を知らしめたのは、Added Value—The Key to Prosperity, Business Book Limited, 1978（小川洌・真船洋之助・上領英之・鎌原英訓訳「付加価値と生産性」中央経済社、昭和56年）であるといわれており、この書物は英語使用圏で付加価値と題した最初の書物である。

そのウッド氏は、私の要請にこたえて、付加価値をテーマとして自分で書いたいろいろな論稿をコピーしたものをまとめた Added Value, Wealth

Creation And Productivity. A Collection of Papers by EG Wood BCom FBIM MIMC というパンフレットを送ってくれた。彼は、自分の主な興味は生産性測定に付加価値をどう使うかにあるのだといっている。付加価値会計（彼はこれを制度会計の中で考えている）には生産性測定への付加価値の利用ほど興味をもっていないが、イギリスの会計専門家（Accountants）が付加価値をどう扱うか、そのやり方には強力な見解をもっているという。彼は、付加価値がいろいろな方法で取扱わなければならない基本的には経済的概念であるのに、付加価値をなんとか把握できるように、あまりにも利益概念にイギリスの会計専門家は浸りきってしまったと言っている。

ギルクリスト氏が私にウッド氏には会ってみるといいと助言してくれたが、ウッド氏は手紙で、よろこんで会うと言ってくれたのである。また、もうそうしているだろうが、イギリスの付加価値会計の専門家（experts）と交渉をもつようにすべきだと助言して、次の人々を紹介してくれた。

ケント大学の社会科学部の B A Rutherford 博士、原価管理会計士協会の Bernard Cox氏（63 Portland Place, London WI）、スコットランドのアバーディーン大学教授 Michael Morley、イングランド・ウェールズ勅許会計士協会の Michael Renshall 氏である。そして、それに加えて 25 Old Cloucester Street, Queen Square, London WCI にある会計簿記学校を経営する Emile Woolf 氏を紹介してくれた。

#### 4 コックス氏の付加価値会計について

イギリスの原価管理士協会の幹部であるコックス氏は、原価管理士協会の協力で昭和54年に Value Added—An Appreciation for the Accountant Concerned With Indudustry, Heinemann, 1979 を出版している。いくつかの会社を経験した経営管理技術のベテランであるばかりでなく、コックス氏は、ロンドンの the City University の大学院で1981年（昭和56年）12月に博士号を受ける試験のための博士論文の論題「イギリスにおける

イギリスの付加価値会計の資料(1) (中原)

付加価値インセンティブ計画の研究」を提出していると言っていたのが昭和56年9月のことであった。このテーマは、インセンティブ計画の55事例の実態調査に基礎をおいたものだという。これを原価管理士協会から近く出版することになっており、私が訪英する頃には出来上っているだろうということであった。コックス氏は付加価値会計の文献目録を次のように同封してくれた。

第1表 コックス氏のあげる文献

LIBRARY AND INFORMATION SERVICE-Bibliography

Up-dated JULY 1981, Compiled Feb. 1981

ADDED VALUE STATEMENT

*Books* (657. 44)

COX, Bernard,

Value added: an appreciation for the accountant concerned with industry. London: Heinemann in association with ICMA, 1979. p. 220.

MORLEY, M. F.

The value added statement: a review of its use in corporate reports. London: Gee, 1978. p. 150.

RENSHALL, Michael

Added value in external financial reporting, by Michael Renshall and others. London: Institute of chartered Accountants in England and Wales, 1979. p. 116.

GRAY, Sidney

Value added reporting: uses and measurement. A research study, by Sidney Gray and Keith Maunders. London: Association of Certified Accountants, 1980. p. 71.

Added value statement

*Journal articles*

B3703 COX, Bernard Added value and the corporate report. *Management Accounting* Apr. 1976 pp. 142-146 (5 pgs).

C217 MORLEY, M. F. The value added statement; an innovation in corporate reports.

*Certified Accountant* Jun. 1978 pp. 165-167, 169-170 (5 pgs).

- C218 RUTHERFORD, Brian Examining some value added statements.  
*Accountancy* Jun. 1978 pp. 48-50, 52 (4 pgs).
- C220 BURNS, Paul Do we need a new statement, cash value added?  
*Accountancy* Jul. 1978 pp. 93-94, 96 (3 pgs).
- C264 L'ESTRANGE, John Just how valuable is a statement of added value?  
*Accountants Weekly* 1 Sep. 1978 pp. 17-19 (3 pgs).
- C265 ALLEN, David Some of the pitfalls to watch out for in value added concept  
*Accounts Weekly* 1 Sep. 1978 p. 19, 21 (2 pgs).
- C303 BOWATER takes a current cost look at value added.  
*Accountancy Age* 12 May 1978 p. 8.
- C307 MOSLER, Stanley D. A value added base for general and administrative expenses on G&A government contracts. (G&A=general and administrative)  
*Management Accounting* (USA) Dec. 1970 pp. 45-48 (4 pgs).
- C532 MORLEY, Michael F.  
The value added statement in Britain.  
*Accountancy Rev* (USA) v. 54 n. 3 1979 pp. 618-629 (12 pg).
- C549 KEOGH, John  
Thoughts on value added accounting.  
*Management* (Eire) v 27 n 1 1980 pp. 25-27 (3 pgs).
- C587 PAKENHAM-WALSH, A. A. The value added statement.  
*Accountancy Ireland* v 11 n 3 1979 pp. 34-37 (4 pgs).
- C744 MORLEY, Michael F. Value added; the fashionable choice for annual reports and incentive schemes  
*Accountants Magazine* v 83 Jun. 1979 pp. 234-236 (3 pgs).
- C815 WHITING, Edwin Value added statements; their uses and abuses.  
*Accountancy* v 91 Mar. 1980 p. 95.
- C816 LUNT, Henry Value added statements  
*Accountant* part 1, 27 Mar. 1980 pp. 488-490; part 2 22 May. 1980 pp. 781-782 (5 pgs).

イギリスの付加価値会計の資料(1) (中原)

- C817 HUGGINS, J. The value added statement—does it really add value?  
*Accountants Jnl* (N. Z.) v 59 n 4 May. 1980 pp.140-142 (3 pgs).
- C842 SMIDDY, Paul Let's standardise value added statements.  
*Accountancy* v 91 Nov 1980 p. 80, 82 (2 pgs).
- D4 SHEPHERD, Nick A. Value added statements; productivity measurement?  
*CGA Magazine* (Can) v 15 n 1 Dec. 1980/Jan. 1981 pp.5-7 (3 pgs).

ADDED VALUE STATEMENT

*Journal Articles* (Cont.)

- D263 BLAKE, J. D. The value added statement.  
*Certified Accountants Students' Newsletter* vol. 6 no 4 Apr. 1981 pp. 12-13, 15 (3 pgs).

ADDED VALUE SCHEMES

*see also* Added value statement; Under specific applications of added value concept e. g. Corporate planning

*Books*

BENTLEY Associates

A dynamic pay policy for growth in productivity/people/profit. Brighton: Bentley Associates, 1976. p. 20.

ENGINEERING Employers' Federation

Practical application of added value. London, 1977. p. 38.

GILICHRIST, R. R.

Managing for Profit; the value added concept. London: Allen & Unwin, 1971. p. 165.

INSTITUTE of Cost and Works Accountants

Measurement of productivity; applications and limitations. London: ICMA in association with the Institute of Production Engineers, 1949. p. 10.

NORMAN, R. G.

Productivity measurement and incentives. London: Butterworths, 1972. p. 181.

PAKENHAM-WALSH, Amory

Value-added in management accounting and pay negotiations. Belfast: Institute of Cost and Management Accountants, Northern Ireland Branch, 1974.

p. 23.

SMITH, Geoff

Wealth creation—the added value concept. London: Institute of Practitioners in Work Study, Organisation and Methods, 1978. p.123.

WOOD, E.G.

Added value: the key to prosperity. London: Business Books, 1978, p.148.

WOODMANSEY, Michael

Added value; an introduction to productivity schemes. London: British Institute of Management, 1978. p. 32. (Management Survey Report no. 40)

SWANNACK, A. R.

Wage payment structures—Why, When and how to change them. London: Inbucon, 1981. 168pp.

Chapter 8 Choosing a new structure—added value-based structure. pp. 87-104 (10 pgs).

#### ADDED VALUE SCHEMES

BELL, D. Wallace

Profit sharing, value added and productivity schemes compared. London: Industrial Participation Association, /1973/p.11.

MOORE, Brian E.

The Scanlon way to improve productivity: a practical guide, by Brian E. Moore and Timothy L. Ross. London: Wiley, 1978. p. 228.

#### Added value schemes bibliography

##### *Journal articles*

B597 WILLEY, G. A. Productivity and profitability measurement—the value added approach.

*Chartered Accountant in Australia* v. 50 n. 2 1979 pp. 11-17 (7 pgs)

B555 STAPLES, F. W. Added value ratios and productivity deals.

*Accountant* 7 Dec. 1972 pp. 723-725 (3 pgs).

B630 MOORE, J. G. Added value as an index of industrial effectiveness.

*Work study and Management Services* Jan. 1973. pp. 23.

B1691 SWANNECK, A. R. and P. J. Samuel The added value of men and



イギリスの付加価値会計の資料(1) (中原)

- materials.  
*Personnel Management* Feb. 1974 pp. 26-29, 41-43 (7 pgs).  
(the authors explain why there is great interest in plant-wide schemes of added value type just now)
- B1772 WOOD, G. How to add value  
*Management Today* Mar. 1974 pp. 73-77 (5 pgs).
- B3468 GOW, E. Using added value as an incentive to improve productivity  
*Accountants Weekly* 5 Mar. 1976 pp. 14-15 (2 pgs).
- C192 WOOLF, Emile and Allen, Joh. Adding value to U. K. industry.  
*Management Today*, May 1978 pp. 63-65, 140 (4 pgs).
- C301 COPEMAN, George. Wages of added value.  
*Management Today*, Jun 1977 pp. 84-86, 88, 138 (5 pgs).
- C302 SMITH, I. G. and Hesketh, P. How pay systems can succeed  
*Management Today*, Nov. 1977 pp. 99-101 (3 pgs).
- C304 WILSON, Brian. The added value of pay.  
*Management Today*, Nov. 1977 pp 101-104 (4 pgs)
- C306 MULCAHY, Noel. Sharing the cake, or, why should profit be a dirty word?  
*Management (Eire)* Sept. 1973 pp. 51-54, 56, and Oct. 1973 pp. 90-91 (7 pgs).
- C308 BEATTIE, D. M. Value added and return on capital as measures of managerial efficiency,  
*Journal of Business Finance*, Summer 1970, pp. 22-28 (7 pgs).
- C309 WOOD, Duncan. The added value concept.  
*Education and Training*, May 1978 pp. 130, 133 (2 pgs).
- C311 Are profits out of date?  
*Management (Eire)* Jan. 1975 pp. 35-37 (3 pgs).
- C312 WILSON, H. A. V. Added value in measuring manpower productivity  
*Management Accounting*, Jun. 1971 pp. 168-170 (3 pgs).
- C313 Value added: a new concept of efficiency?  
*Business Administration*, Jul. 1971 pp. 13 (1 pg).

- C314 TROY, M. F. Value added by manufacture.  
*Management Accounting* (USA) Oct. 1970 pp. 51-54 (4 pgs).
- C315 WILSON, H. A. V. Added value and money averages in company-wide incentive schemes.  
*Management Accounting*, Jul/Aug. 1972 pp. 212-215 (4 pgs).

#### ADDED VALUE SCHEMES

##### *Journal articles*

##### C Sequence:

- C538 WOOD, E-G. Setting objectives in terms of added value.  
*Long Range Planning*, vol. 12 vno 4 1979 pp. 2-6 (5 pgs).
- C597 WILLEY, G. A productivity and profitability measurement—the added value approach.  
*Chartered Accountant in Australia* (Aus), vol. 50 no 2 1979 pp. 11-17.  
(7 pgs)
- C744 MORLEY, Michael, F. Value added; the fashionable choice for annual reports and incentive scheme.  
*Accountant's Magazine* vol. 88 1979 pp. 234-236 (3 pgs).

## 5 グレイ教授の付加価値会計について

スコットランドのグラスゴー大学のグレイ教授は、前述のように勅許会計士協会から出版した *A Research Study Value Added Reporting: Uses and Measurement*, 1980というテーマのリーズ大学のマンドース (Keith Maunders) 教授との共著を送ってくれたが、グラスゴー大学はロンドンから鉄路6時間、空路1時間だからイギリスに来られたらよってくれるようにとのことであったが、付加価値に引続き関心をもっていることを明らかにしているだけであった。

## 6 モーリイ教授の付加価値会計について

スコットランドのアバディーン大学のモーリイ教授は、The Value Added Statement a review of its use in Corporate Reports, Gee & Co., 1978. を出版しているが、彼自身の著作以外で付加価値会計の著書として次のものをあげている。

### 第2表 モーリイ教授のあげる文献

'Wealth Creation—The Added Value Concept' by Geoff Smith published by Fabion Press Ltd., Greenwich, London.

'Added Value—The key to prosperity' by E. G. Wood published by Business Books Limited, 24 Highbury Crescent, London.

'Added Value in External Financial Reporting' by Michael Renshall, Richard Allan and Keith Nicholson, published by the Institute of Chartered Accountants in England and Wales' London.

'Value Added Reporting: Uses and Measurement' by S. J. Gray and K. T. Maunders, published by The Association of Certified Accountants, London.

'Value Added—An appreciation for the accountant concerned with Industry' by Bernard Cox, published by the Institute of Cost and Management Accountants, London.

## 7 むすび

イギリスの付加価値会計の専攻者との個人的交渉は昨年(昭和56年)9月に始まったばかりである。しかし、モーリイ教授、グレイ教授、ウッド氏、コックス氏、ギルクリスト氏と積極的に資料提供をしてくれるし、研究者の紹介もしてくれている。アメリカの会計研究者には、すでに12年も前の昭和45年(1970年)頃から個人的に交渉があった。パッチロ (James W Pattillo) の「パッチロ財務会計の基礎」(The Foundation of Financial Accounting;

Louisiana State University Press, 1965) を飯岡透教授と共訳で翻訳しているし、バッター (William J. Vatter) の「バッター 資金会計論」(The Fund Theory of Accounting And Its Implications For Financial Reports, University of Chicago, 1947) を同じく飯岡透教授と共訳で翻訳したのが昭和46年 (1971年) だったからである。

イギリスは現在、付加価値会計の文献が次々とあらわれるような状態の中にあって、その研究者もイギリス各地に散在している。この付加価値会計の制度化のまっただ中にある研究者との資料交換と意見交換を今後もますます盛にしていきたいと考えている。それがわが国の付加価値会計の理論形成に役立つと思うからである。

この資料にあげたモーレイ、グレイ、ウッド、コックス、ギルクリストの5氏には拙著を送っている。